

SAT テクノロジー・ショーケース 2024 に参加しました 若手特別賞を受賞いたしました

農地基盤情報研究領域 農地整備グループ 新村麻実

2024年1月25日にかけて、つくば国際会議場にて開催された「つくばサイエンスアカデミー (SAT) テクノロジー・ショーケース 2024」において「ゴミが詰まりやすい水路に適用可能な水田の水管理機器の開発」というタイトルでポスター発表を行いました。成果の内容をご紹介しますと、現在、ICT水管理機器を現地に適用した際に給水口でゴミ詰まりのトラブル発生が課題となっています。ゴミ詰まりによるトラブルは、用水の流下過程でゴミが混入しやすい開水路で特に顕著でした。今回開発した袋体を用いた開閉機構を有するICT水管理機器では、開水路において給水口にゴミが混入した場合も安定して止水できることを実証しました。

SAT テクノロジー・ショーケース 2024 には今回初めて参加させていただきました。普段参加している農業農村工学会の大会講演会と異なり、ポスター発表者は1分間の発表紹介がありました。時間内にまとめられるか心配でしたが「不安な時こそ元気よく大きな声で」をモットーに挑んだ結果、緊張と自分の声の大きさに会場のマイクが OFF になっていることに気づかず、途中からやり直しとなってしまいました。そして、その様子が Youtube(<https://youtu.be/C7wjsa57Pyc?si=W6DmqZ2Cko-6PH7O&t=1380>)にて生配信されていました。非常に恥ずかしい気持ちになりましたが、ポスター発表のコアタイムでは発表紹介を聞いて関心を持ってくださった方が多数訪れてくださり、コアタイムの間はたくさんの方と交流することができました。会場内でも「あの水田の発表をされていた方ですよね？」とお声をかけていただきました。

コアタイムの中で印象に残っているのは、民間企業の方と袋体の元となる塩化ビニル等のプラスチック素材の溶着や加工の難しさについてお話をする機会をいただいたことです。通常のアウトリーチ活動では理路整然と研究成果を報告することが求められていますが、端折った説明の裏には大なり小なり苦労や失敗が詰まっています。中々研究者同士でも分かり合えない裏側のお話を共感していただけただけで苦労が報われるような思いでした。

そして、今回の発表方法や内容をご評価いただき、若手特別賞を受賞させていただきました。自分が面白そうだと思ったことを人から共感していただけるとこんなにも嬉しくなってしまうんだなあ、と語彙力のないとても当たり前のことを徐々に実感しました。

この研究を進める過程では自作した試作機がうまく動作せず原因もわからずに行き詰まってしまう、人前で自分の研究課題の話題を出すことを避けてしまう時もありました。そんな時も、研究課題を立ち上げた当初から「新村さんが興味・関心を持って取り組める研究課題を見つけて欲しい」と背中を押してくださった当時のグループ長や領域長、そして現在支えてくださっている職員の皆様や実証試験をご快諾くださった耕作者様のおかげで今回このような賞をいただくことができました。業務に関わってくださった皆様に感謝を述べて受賞の報告とさせていただきます。

最後に、今回初めて参加した SAT テクノロジー・ショーケース 2024 では発表者層が幅広く、中学生から大学生、そして多数の研究機関が参加しており、幅広い研究分野について発表が行われていました。特に、私の関心を引いたのは産総研のアザラシ型メンタルコミットロボットの「パロ」です。農業農村工学分野では屋外耐候性、耐久性、防水性といった堅牢な機械が求められる中で癒しを目的としたパロはとても新鮮に感じ、つい家庭用に欲しくなるほど可愛らしかったです。異分野の研究に刺激をもらったイベントでしたのでまた来年もぜひ参

加したいなと思いました。お近くにお住まいの皆さんも来年はぜひ足を運んでみてください。

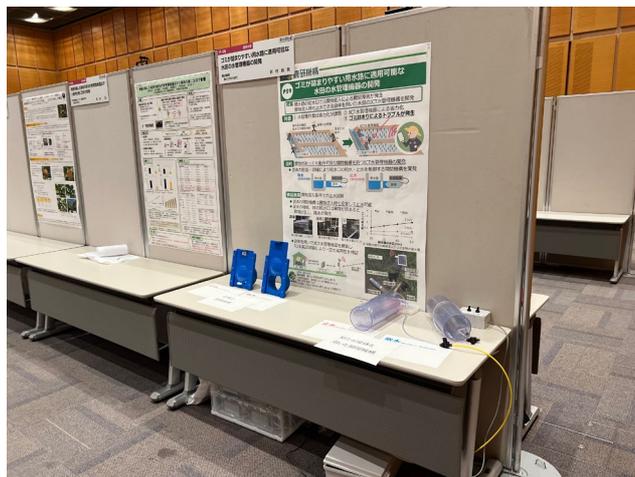


図1 ポスター会場の様子



図2 産総研ブースに展示されていたアザラシロボットのパロ